

目指す学校像

高き志【こころざし】

地域とともにある

勢いのある学校

No. 34(R2. 1. 14発行)文責 校長 福田雅也

学校として育みたい資質・能力

いきなりで申し訳ありませんが、今号は少し専門的で難しい話になります。

「生きる力」をより具現化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を

ア 何を理解しているか、何ができるか
 (生きて働く「知識・技能」の習得)

イ 理解していること・できることをどう使うか
 (未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)

ウ どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか
 (学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)

の三つの柱に整理するとともに、各教科等の目標や内容についても、この三つの柱に基づく再整理を図る。

上は、来年度から全面実施となる小学校学習指導要領第1章「改訂の基本方針」の中にある文章の抜粋です。したがって今回の改訂では、各教科の目標や内容がこの三つの柱に沿って示されているのです。言い換えれば、各教科ごとにある目標を達成するために学習は進められていきますが、その学習を繰り返す中で、この三つの資質・能力の育成を常に図っていく必要があるということです。さらに、子どもたちや地域の実態に応じて、上記三つの柱を基に、「学校として育みたい資質・能力」を明確にするように求められているのです。加えて、それは学校だけではなく、保護者、地域、行政、そして子どもたちの思いや願いを取り入れ、それら五者で共有することまで求められています。今回、専門的で難しい話をお伝えしなくてはならなかった理由がここにあるのです。

そして、現時点で仮に決定した「学校として育みたい資質・能力」が下に示したものです。

自律(立)、そして自尊感情と他者意識

下は、学校教育目標、上記の三つの柱と従来からある「知、徳、体」の考え方をクロスさせて導き出した目指す児童像と、「学校として育みたい資質・能力」との関係を示した表になります。この表は、学校としては(※)ボトムアップ形式で作成したものになりますが、今後、これをたたき台

夢に向かい 心豊かで たくましく 自ら学ぶ 高木っ子の育成

学校として育みたい資質・能力 自律(立)、そして自尊感情と他者意識			
	生きて働く「知識及び技能」の習得	未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養
知	読心・書く・計算する・話す 【自律(立)】【自尊感情】	主体的に考え、表現し、活用することができる子供 【自律(立)】【自尊感情】	粘り強く考え抜く子供 【自律(立)】
徳	基本的な生活習慣が身に付いている子供 【自律(立)】	リーダー性を持って、他者と関わろうとする子供 【他者意識】	自他ともに大切にしている子供 【自尊感情】【他者意識】
体	進んで体を動かし、運動を楽しむ子供 【自律(立)】	自己管理能力を身に付けた子供 【自律(立)】	よりよい生き方を追求する子供 【自律(立)】

として、ご説明を加えながらPTA役員会やPTA総会、そして学校運営協議会で内容を検討し、ボトムアップ形式での作成に近づくよう手順を踏んで、来年度中に正式決定していきたいと考えております。子どもたちとの共有も求められておりますので、児童会でも検討をしていく予定です。

HP上では12月から関連記事を掲載しておりますが、まずは、保護者、地域、行政等の方々へ内容のご確認をお願いできればと思います、今回の学校便りを発行させていただきました。

今後、ご面倒をおかけすることになると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

(※)企業経営などで、下位から上位への発議で意思決定がなされる管理方式